

講義名	都市交通計画/地域交通政策			授業形態	
担当教員	長谷川 哲郎	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

【主題】
都市交通の必要性や果たしている役割、今日的な課題や計画論の理解
【概要】
社会経済活動や日常生活を円滑におこなうためには、鉄道やバスなどの公共交通体系、自動車のみならず二輪車・歩行者にとっても利用しやすい道路交通体系が確立されていることが必要です。この授業では、私たちの生活に密接に関係している都市交通について、その必要性や果たしている役割、それぞれの構成要素等について理解を深めると共に、都市構造と交通の関係性、今日的な交通ニーズや計画論などについて学びます。

到達目標

個別交通手段ごとに、役割や特性、今日的な交通課題を理解する事ができるようになる。
総合交通体系の概念を理解し、社会活動や日常生活を支える交通体系のあり方を考えることができるようになる。
交通データについて理解し、これを用いた分析を行うことができるようになる。
これらを総合化し、都市交通にかかる問題への対応方策を考えることができるようになる。

提出課題

授業の進捗に応じて、レポート課題を求めることがあります。実施内容や方法については、個別に指示します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

今回の授業の際に、必要時には全体的な講評や個別のコメントをおこない、積み上げ型の学修が出来るようにフィードバックします。

評価の基準

平常点（出席点、レポート課題など）を30点、前半部分の確認試験と定期試験を70点として評価します。
試験に際しては、講義で配布した資料のみ持ち込みを認めます。また、携帯電話やパソコンの持ち込みは不可とします。

履修にあたっての注意・助言他

積み上げ型の授業であり、かつ、授業時間中に演習問題を課すことがあるため、授業には必ず出席してください。
公務員（行政職）を志望する学生は、“交通”は自治体における最も身近な課題のひとつであることから、本授業を通じて交通にかかる知識を深めておくことを推奨します。

教科書

.使用しません。

参考図書

.都市交通計画（第3版）、新谷洋二、原田昇 技法堂出版 3520 978476551848

その他

授業はパワーポイントを用いて行いますが、プリント（パワーポイント資料、その他参考資料など）を配付します。

授業計画

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 自動車交通
 - 第3回 自動車交通
 - 第4回 公共交通（鉄道）
 - 第5回 公共交通（バス）
 - 第6回 徒歩・二輪
 - 第7回 総合交通体系
 - 第8回 前半のまとめと確認テスト
 - 第9回 交通パラメーター
 - 第10回 都市構造と交通
 - 第11回 交通実態調査
 - 第12回 交通データ
 - 第13回 将来交通量予測
 - 第14回 都市交通政策の実例
 - 第15回 新しい技術と今後の都市交通計画
- 定期試験

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業終了後は、記憶が鮮明なうちに復習してください。併せて、参考図書や自治体自治体の取り組み状況等をIP等で学習することで、理解度をさらに高めてください。（約2.5時間/回）
日々の生活の中で移動する際に、本授業で学んだ知識や知見と関連づけることで、都市交通計画にかかる理解を深めてください。（約1.5時間/回）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業では、都市交通計画にかかる仕組みや法制度を理解し、交通面を中心としたまちづくりのあり方や課題について学び、考えることを通じて、『人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に蓄け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる』（経済学部 経済学科の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力）に貢献します。

双方授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
コンサルタントとして都市交通計画に従事した経験や、地方自治体職員として交通政策の立案と具体化に取り組んできた実績を活かし、具体的な事例紹介や実務での知見を伝えることで、都市交通計画にかかる理解の深化を図ります。

備考